

【ぜいはあ、設定資料集】

★登場人物★

津島 洋美（つしま ひろみ）…嶋木 美羽

37 歳。都内の高級マンションに暮らす独身OL。幼い頃から異常な程に運が悪い上、可愛がられて育った姉の佳子とは違い、物凄く適当に育てられた為、独立心の強い器用貧乏だった為、どんなに頑張っても報われない事ばかりだった為、今ではすっかり超超ネガティブ人間になってしまった。「もう何も期待したくない。欲望をそぎ落としたい。贅沢と距離を置きたい。さよならしたい。でも、姉（佳子）の様にかまってちゃんみたいな事はしたくない」という複雑な思いから「偽装の為にあえて高級マンションを購入して、ローン地獄で外側は贅沢・内側は貧乏みたいな生活に身を落とせば良くね??」となったが、いざ購入となった際にわりとビビってしまい、妥協案として、事故物件の高級マンションを購入してしまう。ちなみに、家具は職場の後輩である野乃花から「引っ越しで要らなくなった家具がうちに沢山あるんですけど、先輩、要りますか?」と、よく分からない家具達をたくさん譲り受けたのだが、そのせいで後々大変な事となる。駄目駄目な登場人物達の中で、亜耶にだけは同情している。

金田 亜耶（かねだ あや）…榊原 茜

25 歳。フリーター。大学生の頃から近所の 100 円ショップで働いている。マイペースでコミュ障。ちょっと不思議ちゃん。いつもカエルのパペットを持ち歩いている。ので、幼い頃からいじめられてきた。カエル越しだと饒舌になれる。こんな自分とも仲良くしてくれた光鈴や、光鈴の母である佳子の事が好きだったのだが（本当はコンプレックスを抱いていたのだが、光鈴に父親が居ないという事で辛うじてマウンティングできていた）、父親を光鈴の母に奪われた事により（後述）美鈴達とどう接して良いのかが分からなくなる。駄目駄目な雰囲気醸し出しているが、本当はかなりの自信家で、不思議ちゃんのも実は演技で、カエルのパペットとか汚いからさっさと捨てたいとか本当は思っていて、将来は作家になりたいとも思っていて、そんな自己矛盾に常に苦しんでいる。洋美の事は怖いと思いつつ、実はずっとリスペクトしていた。元父・顕吉の遺産が転がり込んできた事と、母・柳子に断捨離と称してカエルを 1 匹捨てられた事、光鈴の結婚式に来て来て攻撃等をきっかけに、洋美のマンションに家出してくる。

金田 柳子（かねだ りゅうこ）…かくた なみ

54 歳。亜耶の母親。15 年前、夫である相川 顕吉（あいかわ あきよし）を相川佳子（当時は津島佳子）に奪われる。それまでは特に大きな苦労もなく、そこそこ控え目な幸せ人生を歩んできただけに、そのショックは相当なものだった様子……と、思ったら何だか平気そう?なの??基本的には楽道家。自称・ミニマリスト。常に普通で居ようとする癖がある。亜耶の鬱憤には実はずっと気付いていて、彼女を苦しみから解放する為に、あえてカエルを 1 匹捨ててみたら家出されてしまい「えー?ショックー」となっている。まあ、行く先は想像できるので様子見するかーと呑気に構えていたら、まさかの相川親子が亜耶の説得の（結婚式に出てもらう）為に、金田家にやってくる。

相川 佳子（あいかわ よしこ）…花美 えりい

42 歳。洋美の姉。光鈴の母親。未亡人。幼い頃からまるでお姫様の様に育てられてきたが、16 歳の時、当時付き合っていた彼氏の子供（光鈴）を妊娠した事をきっかけに、転落人生を歩む事となる。彼氏には逃げられ、家族からも腫物扱いされ、子育ても仕事も上手くいかない。そんな中、幸せそうな相川家を見て「あれが欲しい」と思ってしまう、亜耶の父親・相川顕吉を不倫の末に略奪婚。口癖は「私はただ、信じただけよ？」欲しいものは何でも手に入れてきた。思い通りにしてきた。事故で顕吉が死亡した今は、光鈴だけが宝物。洋美の事は異常な程頼りにしつつも「もっと欲しいものは欲しいって、ちゃんと言わなくちゃ駄目よ？」と、姉らしい姿を見せる事もある。

相川 光鈴（あいかわ みれい）…渡邊 杏奈

25 歳。洋美の姪。亜耶の元親友。佳子の娘。可愛い。複雑な家庭環境で育てられたとは思えない程に素直で明るいのは、自らが何かを望まなくとも、周りが動いてくれる事を知っているから。与えてくれる事を知っているから。逆に自ら動いてしまったら、何も手に入らなくなってしまう事を知っているから。小学校の入学式の時、勇気を出して話しかけてきてくれた亜耶の事が今でも大好き。なのに、亜耶だけは自分の思い通りにならなくて悲しいと思っている。もうすぐ結婚する。どうしたら亜耶が結婚式に来てくれるのが最近の専らの悩み。良くも悪くも擦れてなさすぎて少し心配になるレベル。

天島 庵（てんしま いおり）…坪和 あさ美

33 歳。元・不動産会社の社員。寿退社した為、現在は無職。洋美にせがまれ事故物件を紹介した。生まれながらの残念女。とにかく運がない。欲しいものは全て誰かに奪われてきた（特に男）。が、彼女は洋美とは違い、諦めなかった。めちゃくちゃ粘った挙句、大好きなダーリンと結婚式までこぎ着けたが、結婚式当日、よく分からない女（野乃花）にダーリンを奪われる。プチ切れてウエディングドレスのままダーリンとの新居に向かうももぬけの殻。家具すらない。どうにかこうにか家具の輸送先をつきとめるとそこは洋美のマンション。洋美が野乃花達を匿っていると勘違いした彼女は、大暴れした挙句、チョコ太郎（後述）に一目惚れ。完全なる部外者だが、洋美に一番近い存在でもある。

チョコ太郎（ちょこたろう）…内田 啓太

？歳。本名・森山 平六（もりやま へいろく）洋美のマンションに居座る地縛霊。記憶を無くしており、夜な夜な「結婚したい……結婚したいよ……」と、すすり泣く。生きる事が辛いと思っている人に程、その姿を確認する事ができる（洋美、佳子、庵→姿がはっきり見える。亜耶→姿がぼんやり見える。柳子→声だけ聞こえる。光鈴→何も見えない）チョコ太郎という名前は亜耶が命名した（亜耶が持っていたチョコレートに強い興味を示した為）結婚という言葉は、前の前の前の住人から教わったとの事。物語が進むにつれて、記憶を取り戻したり何だりしていく。

上原 野乃花（うえはら ののか）…長野 恵美

32 歳。洋美が勤めている会社の後輩。庵のダーリンを奪って駆け落ちした女。可哀想な見た目等を逆手に取り、あらゆる幸せを自分のものとしてきた。

★舞台設定★

2019年9月都内・洋美が住む高級マンション・ロマネスクタワー305号室。

★あらすじ・ポエムバージョン★

息をするのが苦しかったから、
私は何もかもを棄てることにした。
生きるのが苦しかったから、
私は何もかもを手に入れることにした。
贅沢は、もういらないの。
いきるだけでいいの。

私たちは今、ぜいはあ、ですか？

※本公演は《ネタバレしまくり公演》です。

★あらすじ・ポエムじゃないバージョン★

都内の高級マンションで独り暮らしをする津島洋美（37歳）には夢があった。
欲望をそぎ落とし、贅沢と距離を置く事。誰にも迷惑をかけずに「さよなら」する事。
余計な「希望」に振り回されるのはもう嫌だった。だから、わざわざ無理して高級マンションを購入し、ローン返済地獄に自ら身を投じたというのに……。
「あんたら……人の家で………何をしてくれとんじゃ—————っ！！？」
これは、いきることに疲れ果てた彼女達の、天使と悪魔の、愛憎劇みたいな純愛劇です。
多分。